



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-229-0112



最上段で身につけた力

45回生 金比良 友哉

こんにちは、45回生の金比良友哉と申します。この度、宮本先生よりご依頼を受け、会報誌をかかせていただくこととなりました。

私は高校を卒業後、1年の浪人生活をを経て法政大学に進学し、大学卒業後は銀行員として東京で働いております。今回は、私が最上段で学んだこと、高校卒業後の人生において基盤となつてい

る。これは宮本先生がよく口にされてきた言葉ですが、これが最上段で学んだことであると考えています。高校卒業後の浪人生活、大学生活、就職活動、また社会人としての仕事、全ての物事に対して「前向き」に頑張ること

で成功体験を得ることができました。漠然とはしていますが、「前向き」に努力ができることが私の武器だと思っております。本当に大きなものを与えてもらったんだと、改めて感謝しております。これから最上段で学んだことを存分に活かして頑張っていきます。

最後になりましたが、現役生の皆様へ、最上段での経験はその後の人生で必ず生きてきます。まわりで支えてくれる指導者の方々や両親、仲間への感謝を常に持ちながら「前向きに」頑張ってください。城北サッカー部の益々の活躍を期待しております。
それでは、また最上段でお会いしましょう。



きっかけは最上段で

48回生 山口 哲平

初めまして。48回生の山口哲平です。宮本先生よりお話を頂き、OB会報誌をかかせて頂くことになりました。いつも読んでいたOB会報誌に私の名前が載る日が来るとは思ってなかったのですが、正直驚いています。このような機会をくださった先生に感謝しております。ありがとうございます。拙い文章ではありますが、ご一読いただければ幸いです。

まず自身の近況報告をさせていただきます。現在は福岡大学理学部応用数学科に在籍しております。名前の通り数学を専門としていて、ホモロジーという分野を勉強、研究しています。高校の数学は少し好きだったので、その関係の学部のある大学へ進学したわけなのですが、初めて触れる「大学の数学」は一言で言う意味不明です。恥ずかしい話ですが大学4年生に上がったのが奇跡なのではないかと思うくらい、ギリギリのところまで頑張っています。

それよりも大学生活の中心となつていくのが「サークル活動」です。幼いころから歌うことが大好きで目立ちたがり屋の私は、高校から興味があつたギターを始めるために、幼稚園児の頃から14年間続けたサッカーをやめてバンドサークルに入りました。私のサークルでは、演奏はもちろん、音響関係から照明関係などすべてサークル員だけの力で、ライヴを一から作り上げるのでもやがていを感じています。大学3年生のときにはサークル員約180人をまとめる幹事をやらせていただきました。その関係でサークルでは人前で話すことや大学の業者と関わる機会が増え、1つの団体を運営することがどれだけ大変かを学ぶことができました。さて、私の大学の話はこのくらいにします。長々とすいません。

話は変わりますが、私の夢は教師になることです。そう思うようになったのは私が中学2年生のときです。初めて「後輩」というものに出会い、サッカーの練習で先輩に「教える」という機会が多くなりました。ある日の練習後、監督が新1年生に「どの先輩が分かりやすかったか」と質問すると、「山口先輩が良かった」という声がありました。その言葉が嬉しくて仕方がありませんでした。その時「教える」という喜びを覚え、「教師」を目指すようになりました。

そして私はこの度、6年間「生徒」として通った城北に、3週間と短い期間ではありますが教育実習で「教員」として戻ってきました。最初は城北に戻ってきたという喜びの反面、不安なところもありましたが、実習では多くの課題を得ることができました。生徒の前で授業をすることの難しさ、1つの授業に

どれだけの準備が必要なのかを身をもって勉強させていただきました。この実習で学んだことを教員になったときに思い出して頑張ろうと思います。

最後になりますが、現役生の皆さんは、何でもいいので自分の特技を見つけ、磨き、それを武器にしてください。私自身の最上段で朝礼男や、ライノスの副キャプテン、応援団長、など何かしらの形でチームに貢献していました。どんな形であれ、チームのため、自分のために3年間努力することを続けてみてください。必ず人生の糧となるはずですよ。

この先私の人生どうなるかは分かりませんが、夢に向かって突っ走りまわります。そしていつかまた最上段に上がって来た時、笑顔で胸を張れるように自分を磨いていこうと思っております。先生方はこのような機会をくださりありがとうございます。それではまた最上段で。

大切にしていること

50回生 松下 達郎

はじめまして。50回生の松下達郎です。現在は立命館大学・生命科学部生命情報学科の2回生です。

今回は、私が大切にしていることを2つ書かせていただきます。(まだ、偉そうとは思わないでください)(笑)

1つ目は、変わり続けることです。私は中高とサッカー部のキャプテンをさせていただきました。高校に入った当初は、宮本先生の考え方が全く理解できませんでした。(というか、宮本先生が嫌いでした)(笑)あの時の自分の考えが間違っていたとも思いません(こういうことを言うとうそに偉そうと先生に言われますが、私は嘘がつけません)(笑)。

一方で、中学の時のいい試合をしてもあと少しのところで負けてしまったこと理由を高校生になってもずっと考えていました。そして、大きく変わったのは、私が高校でキャプテンになった時です。キャプテンになると宮本先生と意見を交し合うことも増えました。その中で思ったのが、宮本先生と自分の意見を「折衷」し、それをチームの指針として自分が仲間に伝えることができたか?という今より良くなり勝てるんじゃないか?ということ(私の学年は宮本先生の意見は聞き入れず、私の意見は素直に聞き入れるようなひねくれた奴ばかりでした。まあ私が一番ひねくれた奴です)(笑)。

今までの自分を変えることは怖いし、過去の自分を正当化したいプライドだつてありましたが(なんたって、嫌いな人の考え方を受け入れるんですから抵抗しありません)(笑)。しかし、あの時の自分にとっては、変わる怖さやプライドみたいな小さなことよりも、

チームが強くなって勝つことが断然大きかったのだと思います。良くなるためならことごとん自分を変える、それがキャプテンになつてから一番大切にしたことです。

2つ目は、変わらないうことです。1つ目と矛盾するように聞こえるかもしれませんが、ここで私が言いたいのは、変わらなければいけないものがあるということです。先ほど、私が「折衷」と表現したのも、宮本先生の意見を全て聞き入れたのではないことを強調するためです。おそらく私が宮本先生の意見を丸呑みしていたら、仲間は私の言うことを聞かなくなっていたと思います。(50回生サッカー部はひねくれ者ばかりなので)(笑)。

私がキャプテンになり、変わったのも、仲間のためなら変わらないう変わらないう気持ちがあつたからだと思います。

大切にしている2つのことを書かせていただきましたが、私がこの2つを大切にしている中で気付いたことがあります。それは私が大切にしていることを実践している人が身近にいたことです。それが宮本先生です。「達郎のその考え方は正しいわ!俺が間違つてたわ!」と宮本先生は何度かおっしゃつていました。自分の考えより良いと思つたら、誰の意見だろうと自分を変えられる。その一方で、宮本先生の中には、言葉ではうまく表せないが、絶対に変えない芯みたいなものがあるように感じます。(お世辞じゃないですよ)。だつて、嫌いだつた人なんです(笑)。

私がそれに気づいた時に、「なるほど、この人は広島城北サッカー部に全力で向き合っている、サッカー部が良くなるためならことごとん自分の考え方を直して直しているんだな?」かっこいいな。と思つたことを今でもはつきり覚えています。

私はこれからも大きな壁にぶつかることがたくさんあると思います。サッカー部を引退してからも、私は浪人して自分のために頑張ることが苦手なことになり苦しむ、大学に入つても高校サッカーほど一生懸命になれることをなかなか見つけられず苦しんでいきます。「自分のために一生懸命になれることを新しく見つけ、私は変わりました!」と本当は言いたいです。今の私は自信を持ってそういう風には言えません(私は嘘がつけません)(笑)。

それでも、いろいろな人の話を聞き、自分自身考えることで、変わらないうと必死でやっています。

歳を重ねていく度に、自分を変えるのは怖いし、プライドだつて大きくなっていくと思います。それでも自分の中にある芯はブレないように、変わり続けていきたいと思っております。下手くそな文章ですが、読んでいただきありがとうございます。

アンテナ

51回生 角井 伸行

初めまして。今回OB会報誌へ執筆させていただきますことになりました。51回生の角井伸行と申します。このような機会をいただけることを光栄に思うとともに、書く側の人間になりOBになったのだと実感し、時の流れのはやきを感じています。

僕は現在、法政大学 法学部 法律学科の2年生です。大学でもサークルですがサッカーを続けており、大学生にもなって高校時代のように真っ黒になりながら、同好会全国1位を目指し、日々ボールを追いかけたいです。また、4つ上の偉大な先輩が初代理事長でもあるアットホームカップという大会の4期理事会にも所属しており、早くも東京という地で城北の「つながり」を感じつつ、自分が想像していた大学生活よりもはるかにサッカーに恵まれた環境で充実した生活を過ごさせていただいています。

簡単な近況報告はさておき、このような場をいただいたので高校時代を振り返ろうと思います。僕たちの上の代、下の代は人数も多くサッカーも上手な人が多いのに対し、僕たちの代は人数も少なくサッカーも下手ついでした。まさに「谷間の代」です。結果としていい成績は残せませんでした。スタート地点が低かった分、チーム、同じ学年の仲間、自分自身の変化、成長をより一層肌で感じる事ができました。僕にとってこの経験は大きな財産です。そのおかげで今でも活躍している場所は違えど、お互いに刺激し合うことができる一生の付き合いの仲間ができました。今までの自分またはこれからの自分も創っていくのはこの城北サッカー部での経験だと思えます。

そんな高校時代の大半を過ごした最上段グラウンドは宮本先生なしで語ることはできません。名将宮本監督には人の心を動かすいくつかの名言があります。OB、または現役生の方々も心に残る言葉が1人1つはあるのではないのでしょうか。僕もあります。それは「常にアンテナをはれ」という言葉です。現役時代この言葉はよく言われました。正直現役時代はそこまでわかりませんでした。大学2年目になって少しかわかってきました。大学というのは今まで敷かれたレールを走ってきただけの小、中、高とは違い、自分でアンテナをはり、自分で考え、自分で行動しなければなりません。口で言うのは簡単ですが、実際のところ自分の大学1年生を振り返ってみて、僕は興味のある授業をとるのではなく先輩に楽な授業で時間割を組んでもらい、なにをするにも友達に合わせ、したいことよりも楽な方を選ぶという受け身な生活を送っていました。もちろんこの生活も楽しかった

すし、それなりに思い出もできました。しかし、楽しいしか残りません。よく宮本先生はこうおっしゃいます。「俺たちがやつとるサッカーは体育のサッカーとはちやうんじや。まさに同じことだと思えます。楽な方へ進むのは楽しいです。しかし、苦しい方へ進む先にそれ以上のものがあるのが高校サッカーだと思えます。チャンスはどこに落ちているかわかりません。僕も常にアンテナをはってチャンスを拾える人間になろうと思えます。とてもOBっぽいことを言っていますが、僕が現役の時できていたわけではありませんが、後悔があるから大学でもサッカーを続けているんだと思えます。この文章を読んで現役生に少しでもプラスになればと思っています。

そして今回私自身も実感しました。私自身、仕事で全国各地を転動しましたが、その転勤先で必ずサッカーチーム(フットサル含む)に入れて頂き、直近の大阪堺支店時代は、なんとあのJグリーン堺でも試合をしました。それはそれで楽しかったのですが、今は地元で学生時代の昔の仲間と一緒にボールを蹴る事が出来る。しかも現役当時キャプテン(宮本監督)、副キャプテン(吉川)で再びピッチに立つて試合する事が約30年振りに出来た。

ようやく初勝利

広島城北高校サッカー部OB会長

19回生 吉川 英司

「ようやく初勝利」。先週日曜日、今年発足した広島城北クラブ第三戦目。試合会場は広島城北高校最上段グラウンド。試合開始の1時間以上前から集まったOBは指示される事なく、到着順にグラウンド整備やライン引きが始まった。そこが城北サッカー部の所以であろう。そして試合開始。ピッチ上には、宮本監督が右サイドバック、岩井監督がボランチで君臨。なんという光景だろうか? 指導者のプレーがご覧になりたいマニアックな方おられたら是非一度観戦にお越しください。(笑)

試合前のベンチでのコマ。昔の教え子から「宮本監督と一緒にピッチに立てる。」との発言あり。当然集まったメンバーは年齢層も違うので、まず自己紹介を何回生と現役のポジション発表。そして、一応当日のメンバーで最良の戦術発表。そして、試合前の掛け声は、約33年振りの宮本監督(元キャプテン)の「リーショイ」という昔の掛け声が始まりました。試合内容は... 結果勝ちました。やはり試合は勝つと気持ちが良いもので、帰ってからの勝利の美酒に酔いしれました。単身赴任の独り身で...



また、広島城北クラブの試合はHPでも確認出来ますので、お暇あれば試合に出てストレス発散しましょう。では、また来年の1月3日の初蹴り「最上段グラウンド」で元気な顔でお会いしましょう。



QPONのひとり言

男気

今年は、中学校3年生の学年に所属していたため運動会での3年生による集団演技の指導をさせていただき、そのテーマを“男気”にした。

～男気～

男らしい気質、性質、気持ち  
己の損得より、義理や人情に重きを置く気質  
(ピクシブ百科事典より)

これまでも、これからも  
広島城北は、男気!  
大切にしたいね。

最近、なんだか...ね。

少なくとも  
最上段は男気!



宮本 誠 (19回生)

近況報告

みなさんこんにちは!  
24回生の岩井竜彦です。  
引き続き高山英樹先生(36回生)と一緒に、中学校サッカー部を担当しています。中学校サッカー部は、昨年の広島市中学校サッカー新人大会で優勝したのちもしっかりトレーニングを続けており、現在は中国大会出場を目指して広島県中学校サッカー選手権大会に向けた準備を進めています。  
17名の新生入生を加え、総勢45名となりました。なかなかチャンスをしっかり勝ち取るべく、チーム全員でがんばっていきます。  
今後とも応援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

広島城北高校サッカー部コーチ  
岩井 竜彦 (24回生)